

—第3号—

ふるさと 福井の自然

福 井 県



はじめに

自然は無限ではなく、限りあるものとして、全国的に身近な自然環境や歴史的環境を守ろうとする活動が高まりつつあります。さいわい本県においては、県民の皆さんのが身近に触れる事のできる自然が多く残されています。この県民の財産である自然は次の世代へ引き継いでいかなければなりません。

この本を通して、ふるさと福井の自然を理解し、自然保護の大切さを考えいただきたいと思います。

平成元年3月

福井県知事

栗田 幸雄

目次

1. 宇宙からみた福井県	1
2. 福井県の海岸	2~3
3. 横北の海岸	4
(1)弁天岬	5
(2)雄島の自然	6
(3)三里浜の動植物	7
(4)丹生海岸の海岸段丘	8~9
(5)干飯崎・大谷間の断層海岸	10
4. 横南の海岸	11
(1)敦賀半島	12
(2)常神半島	13
(3)三方海中公園	14
(4)内外海半島	15
(5)大島半島	16
(6)内浦半島	17
5. 福井県の天然記念物	18
6. 愛鳥週間・自然観察ウォーク	19
参考図書	20
あとがき	21

CONTENTS

1. 宇宙からみた 福井県

上空 920 km から福井県をながめてみましょう。山岳地帯と断層構造、川と周囲に広がる平野、日本海に面した複雑な海岸線がよくわかります。

海岸線を詳しくみてみましょう。嶺北地方と嶺南地方ではすいぶん地形が違っています。越前海岸は海岸段丘が発達していて単純な海岸線を形成していますが、敦賀半島から若狭地方にかけてはリアス式海岸が広がり、複雑な地形を形成しています。



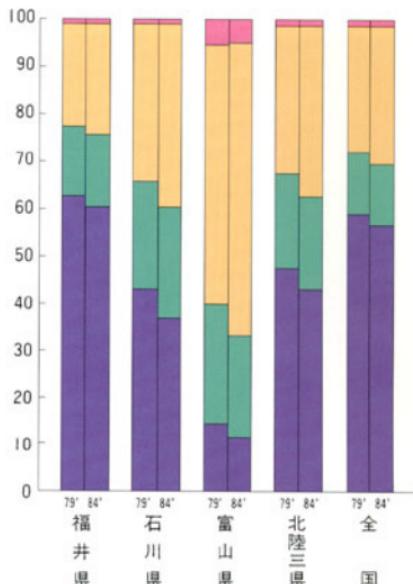
2. 福井県の海岸

海岸線をみた場合、北陸3県のうちで、本県は自然海岸が多く残されています。それでも、海岸の浸食防止のための護岸工事などにより、人工海岸が増えています。しかし、本県のほとんどの海岸は、国定公園（越前加賀海岸国定公園、若狭湾国定公園）にも指定されていることから、なるべく自然景観を壊さないような配慮がなされています。

海岸線区分比較表（84'）

単位%

県名	自然海岸	半自然海岸	人工海岸	河口部
福井県	60.6	15.4	23.6	0.4
石川県	36.8	22.1	40.9	0.2
富山県	11.8	21.5	62.1	4.6
北陸3県	43.0	19.6	36.7	0.7
全国	56.7	13.9	28.6	0.8



自然海岸……人工による改変がなく、自然状態を保持している海岸。

半自然海岸…道路・護岸などで一部に人工改変がなされている海岸。

人工海岸……港湾・埋立・干拓等により、著しく人工的に改変された海岸。

河口部……「河川区域」の最下流端の海に接する部分。



自然環境保全基礎調査（79'，84'）より



三国町東尋坊



敦賀市気比の松原

3. 嶺北の海岸

本県は中央部にある山中岬、木ノ芽岬、柄ノ木岬を結ぶ線を境にして、北を嶺北、南を嶺南と呼んでいます。嶺北の海岸は変化に富んだすばらしい景観により、越前加賀海岸国定公園に指定されています。半島や入りくんだ海岸線はありませんが、火山岩からつくられたみごとな柱状節理がみられる東尋坊、延長12kmの三里浜砂丘、海岸段丘がつづく丹生海岸、断層海岸がみられる甲楽城海岸など、地質学の学習に格好の海岸地形が連続しています。また岩礁には海鳥が多く繁殖しているのがみられます。



イソヒヨドリ



ウミウ



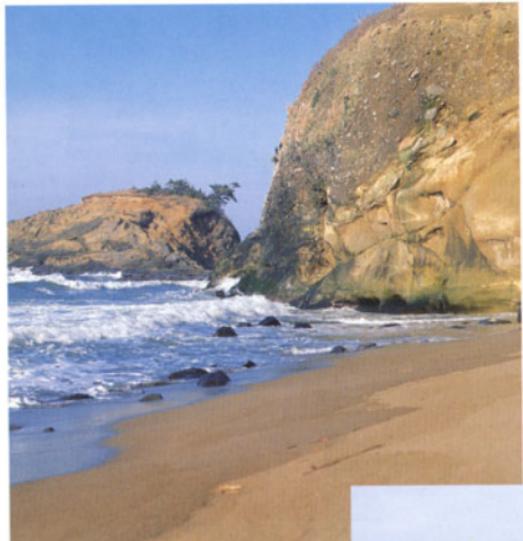
クロサギ



ウミネコ

(1) 弁天岬

弁天岬は本県最北端の岬です。海岸線には海食崖、海食洞、海食台などの浸食地形がみられます。また、地層中には貝化石・植物化石を多く産し、火山岩や堆積岩の地層がよく観察できて地質学の学習には最適な場所といえます。



弁天岬周辺



弁天岬でみられる地層

(2) 雄島の自然

雄島は、東尋坊の北方に位置し、周囲約2km、面積約10haの小島ですが、地質学上、植物学上重要な島です。

雄島周辺には、米ヶ脇累層と呼ばれる約1000万年前（新第三紀）の地層が分布し、雄島は火山岩でできています。島の周囲は鋭く切りたった断崖でめぐらされています。南側は東尋坊でもみられる柱状節理からなり、北側は板状節理が発達しています。

雄島は、北限に近い暖地性要素を示しており、55科 153種（里見信生編・1979）の植物が認められています。島ではヤブニッケイの純林が広がり、他にタブノキ・シイ林を中心とする暖地性常緑広葉樹林がみられます。林床にはキノクニスゲが優占し、他にヤブツバキ・ヒメアオキ・シロダモ・マサキ・マルバグミなどが高密度に分布しています。

県内には雄島だけに生息する昆虫が相当数にのぼり、全国的にもめずらしいものや、南方系の昆虫が多くみられます。中でもオガサワラチャイロカミキリは、暖流にのって漂着したものと推定され、注目されています。



雄島



板状節理



ヤブニッケイ純林

(3) 三里浜の動植物

三里浜は丹生山地の北方にあって、九頭竜川河口の西側に形成された延長約12km、幅約1.5kmの海岸砂丘です。砂丘地の面積は減少しましたが、南部の砂浜海岸にはすぐれた植生帯が残されています。



蘆巣海岸

三里浜には、砂地に特有の昆虫が数多くみられます。その中でもキアシハナダカバチモドキは大変珍らしいハチ類で、おもしろいことに本物の巣穴の両脇にせ穴をつくり、外出するときには、にせ穴を開け放しにして外敵の目をごまかします。



キアシハナダカバチモドキ

砂丘地の植物としてはマツ林および海岸砂丘地植物群落がみられます。

海岸に近いところでは、コウボウムギーハマニガナ群落、ケカモノハシーオニシバ群落がみられます。また、砂丘の内側にはいると、ハマゴウーカワラヨモギ群落、ハマヒルガオーハマグルマ群落などがみられます。さらに内側では、ニセアカシアの低木、砂防帯があり、クロマツ防風林と続いています。



ネコノシタ

(4) 丹生海岸の海岸段丘

海岸付近で、土地がほぼ一定の速さで隆起している間に、繰り返された海面変化によってできたものが海岸段丘（海成段丘）です。海岸段丘には高さの異なる何段かの段丘面が発達していて、その状態により古地理の推移、地殻変動の様式・量を知ることができます（町田貞他編・1981）。丹生海岸は、全長にわたり海岸段丘が発達していて、丹後半島（京都府）とともに日本海における代表的な隆起海岸です。また段丘の高度は一様ではなく、隆起量の違いがみられ、特に越前岬は高度約100mの雄大な海食崖景観を示しています。



福井市鮎川から越前町黒崎にかけては、新第三紀（約1500万年前）の地層が連続的に露出しています。鮎川の海食棚にみられる凝灰質砂岩は化石を多く含んでいて、ピカリアなどの貝化石や植物化石を多く産出します（日本自然保護協会・1966）。これらの化石は約1500万年前の示相化石や示準化石で、堆積当時は亜熱帯気候であったことがわかります。

* 示相化石により堆積当時の環境が推定できます。水温・水質・気候など、そこがかつてどのような場所であったのかを知ることができます。また、示準化石は地層の対比や時代決定に役立ち、サンヨウチュウやアンモナイトなどがあります。



カメ化石（下は現生スッポン）



小丹生海岸

海面の岩礁には、ウミウ・ヒメウが止まっている姿がみられます。鳥糞岩は夜間のねぐらとなっていて、鳥の糞により岩壁がまっ白になっています。



鳥糞岩

(5) 干飯崎・大谷間の断層海岸

地層は後におこった地殻の変動によって変形したり、断ち切れたりすることがあります。地層がある面を境ににくい違うことを断層といい、くい違いの面を断層面といいます。干飯崎から大谷に通ずる海岸線は断層（甲楽城断層）海岸の典型を示しています。

甲楽城断層は比高約300mで、断層を境に東側は隆起していますが、西側は沈下していて地質上の嶺北・嶺南地方を分ける境界になっています（塚野善蔵編・1969）。



甲楽城断層

~~ 一回〆モ ~~

スイセン (ヒガンバナ科)

原産地は地中海沿岸で、中国を通じて渡ってきたものと思われ、日本では関東以西の沿岸域に分布しています。

本県では、越前岬を中心に約20kmの海岸の崖に何千万本もの群生がみられます。葉は晩秋に生長し、開花は1~2月頃まで続き、その間に摘まれて県内外に多く出荷されています。また、県花にも指定されています。（昭和29年指定）。



越前岬灯台遊歩道

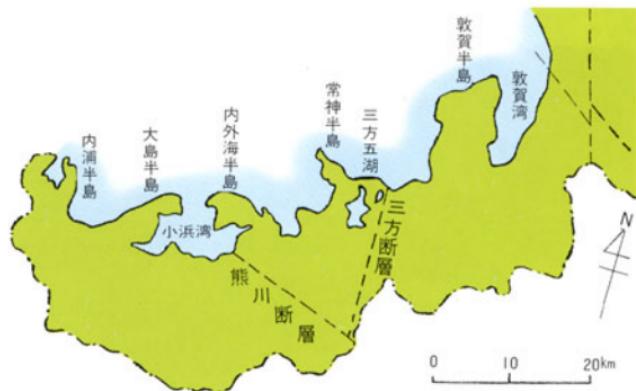
4. 嶺南の海岸

嶺南の海岸は、若狭湾に面した海岸で、敦賀半島・常神半島・内外海半島・大島半島・内浦半島が突出しています。また、それらの間に敦賀湾・小浜湾・内浦湾などの小さな湾が入りこみ、リアス式海岸になっていて、嶺北の男性的な海岸に対して女性的な海岸を形成しています。

リアス式海岸は、土地が沈み海水が陸地に進入し、海岸線が陸地に移動したもので、出入りの多い複雑な形をつくります。海底には海底谷（おぼれ谷）など、かつての陸上の地形が残されたりします。

若狭湾の中でも三方五湖と常神半島周辺は、三方断層と熊川断層により土地が著しく沈降したもので、三遠三角地と呼ばれ特に美しいといわれています（日本自然保護協会・1978）。

嶺南地方には暖地性の動植物が多く分布していて、北限種も少なくありません。また、半島周辺にはホンシュウジカ・ニホンザルなどの哺乳類が生息分布しています。



(1) 敦賀半島

敦賀半島はそのほとんどが白っぽい花崗岩からできていて、海岸地形は変化に富んで美しい自然景観がみられます。とくに、水島・門ヶ崎・水晶浜は有名です。その中でも、明神崎のアカマツ林、スダジイ群落、モクゲンジの群落、淡水をたたえる猪ヶ池、淡水画のような美しさをもつ水島など、立石から水島にかけては、地形・植生ともに変化に富みすぐれた自然景観がみられます。



モクゲンジ（ムクロジ科）：落葉高木で6～7月ごろ黄色の花が咲きます。種子は数珠に使われます。本州西部の日本海側、朝鮮、中国に分布しています（相賀徹夫編・1972）。



門ヶ崎

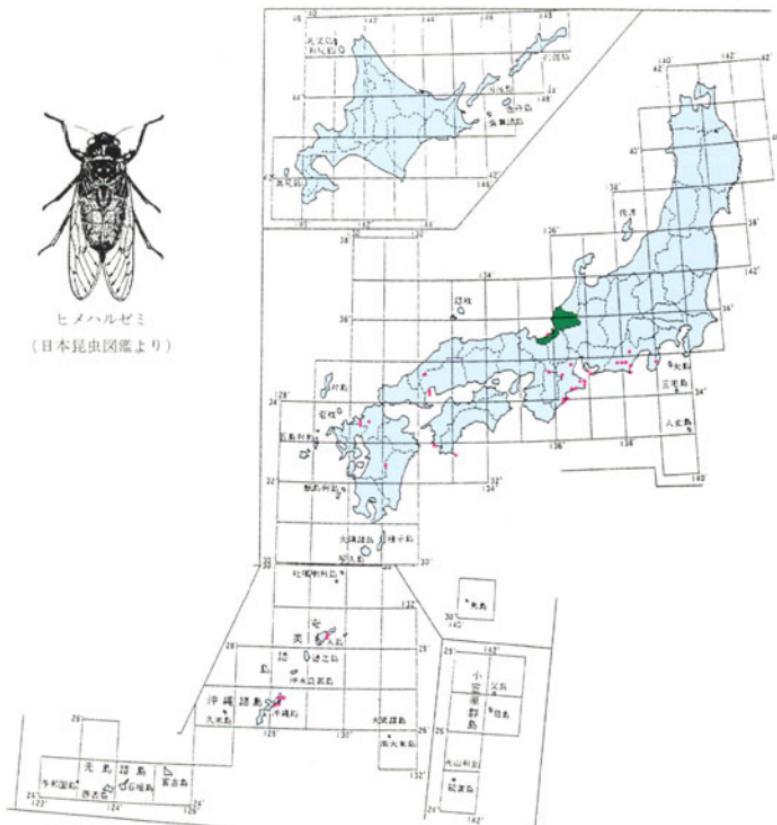
(2) 常神半島

常神半島の海岸は典型的なリアス式海岸で、半島全体にわたり非常に発達した暖地性常緑広葉樹林を形成し、とくにスダジイ林・タブ林が優勢です。常神半島の神社林は、ほとんど人の手が入っていない原生林が残されています。とくに、神子神社にはイノデータブ群集、常神社にはヤブコウジースダジイ群集が広がっています。

また、半島の先端付近に御神島があります。この島には暖地性の昆虫が多く分布し、ヒメハルゼミの他に分布北限種も多くみられます。



ヒメハルゼミ
(日本昆虫図鑑より)



ヒメハルゼミの全国分布

(環境庁、1988年より作成)

(3) 三方海中公園

若狭湾には、常神半島の先端と世久見湾内に、4ヶ所の海中公園地区があります。この海域沿岸は、リアス式海岸が最も発達していて大小の岬、島、岩礁があり、海底の地形も複雑な形をしています。

対島海流と沿岸流の影響を受けて潮の流れはゆるくおだやかです。また、海中の透明度は最高27mと非常によいため、海中の観察に適しています。



スズメダイ・イシダイの群れ

(4) 内外海半島

内外海半島は、久須夜ヶ岳（標高 619 m）を中心とする半島です。海岸の大部分はなだらかですが、半島北端部の蘇洞門と呼ばれる約 6 km にわたる海岸は、外海の荒波による浸食をうけて、花崗岩の方状節理よりなる奇岩・奇礁が連なり、国の名勝にも指定されています。

久須夜ヶ岳へは、エンゼルラインで山頂まで道路が整備されていて、若狭湾の雄大な自然景観を一望におさめることができます。



蘇洞門断崖

(5) 大島半島

大島半島は、小浜湾の西側に位置し、南北にのびて急峻な地形をしています。また、半島西側は岩礁と海食崖の続く男性的な海岸なのに対し、東側の海岸はなだらかで波静かな内湾的海岸風景が続き、対照的な美しさをみせています。

植相では、ヤブコウジースタジイ群集の暖地性照葉樹林が広がっています。また、ビワの自生帶が広い範囲に分布しています。鳥獣は、イワツバメやイソヒヨドリの繁殖、セグロカモメやオオセグロカモメの越冬がみられます。またこの半島全域は、ホンシュウジカが分布することで知られています。その他に貝類では、シリオレキセルガイが県内最大の生息地（福井県・1985）になっています。

冠者島には、アミダテントウやクマゼミなど暖地性の昆虫が多く分布し貴重な地域となっています。



赤穂崎

(6) 内浦半島

本県における最南端の内浦湾をはさんで、大浦半島と内浦半島があります。内浦半島の北面には、高さ約100~250mに達する音海断崖^{おんかいだんがい}が約2.5kmにわたって続き、半島東側には隆起海食台がみられます。

半島には、暖地性の動植物が多く分布しています。植相では、スタジイ林を中心とした暖地性常緑広葉樹林が広がっています。昆虫相では、ツシマムツボシタマムシ、クチキコオロギなど県下唯一の分布を示す昆虫（佐々治寛之編・1985）が多数生息し、その多くは分布北限や日本海側東限となっていて、暖地性昆虫の宝庫として貴重です。



音海の断崖

5. 福井県の天然記念物

本県における天然記念物は、国指定が10、県指定が33（昭和63年現在）となっています。その中で海岸付近におけるものが6ヶ所あります。

指定別	名 称	所 在 地	指定年月日
県指定	休岩寺のソテツ	敦賀市大比田	S 29. 12. 3
"	小川神社のカゴノキ	三方町小川	S 32. 7. 30
"	世久見の相生の松	三方町世久見	S 41. 4. 26
国指定	東尋坊	三国町 <small>宗・末・箱・安島・津・坂・崎・松・浜地</small>	S 10. 6. 7
"	常神のソテツ	三方町常神	T 13. 12. 9
"	蒼島暖地性植物群落	小浜市加斗	S 26. 6. 9

(福井県、1980より作成)

蒼島暖地性植物群落

蒼島は、小浜湾の沿岸約1kmに浮かぶ、面積約2haの小島です。植生としては、タブ・スダジイ・ヤブツバキ・モチノキなどの暖地性常緑広葉樹林からなります。蒼島にはナタオレノキ・ヒメユズリハ・モッコク・カラタチバナ・ムサシアブミなど、区系地理学的にみて貴重な植物が多く分布しています。



カラタチバナ (ヤブコウジ科)

ナタオレノキ及びムサシアブミの分布域



(環境省、1988より作成)

6. 愛鳥週間

第42回愛鳥週間は5月10日～16日にわたり、「鳥の声・ひびき緑のシンフォニー」というテーマで、全国各地で野鳥とふれあう行事がおこなわれました。本県では期間中をとおして県鳥獣保護センターが「山野の鳥・水辺の鳥」の映画上映を行いました。また「愛鳥なんでも相談」では、鳥に関する疑問に鳥獣保護センター・県自然保護課が答えました。

5月10日には、鳥獣保護センター近くのふるさとの森において、「野鳥の住める森づくり」の記念植樹が行われ、社北小学校・清明小学校の児童5年生170名が参加して、ネズミモチ・サンゴジュ・ヤマモミジなど5種類70本の苗木を植えました。

5月15日には足羽山周辺一帯で、日本野鳥の会福井県支部主催の「探鳥会」が行われました。



バードウォッチング（ふるさとの森）

自然観察ウォーク

自然観察ウォークは、身近な自然や動植物に親しもうと、県が毎年春と秋の2回行っているもので、今年で4年目をむかえました。

第7回自然観察ウォークは10月2日に三国町雄島で開かれ、約90名の参加がありました。自然観察指導員の引率で、海浜自然公園から雄島にかけて約5kmのコースを歩きました。

雄島に残された原生林などをみたあと、人気があったのは磯の見学で、仕かけた網でタコやイシダイ、アメフラシなどがとれて参加者は初めてみる動物に見いっていました。



磯の見学（安島）

参考図書（アルファベット順）

1. 福井県（1980）福井県の文化財
2. " (1985) みどりのデータ・バンク総括報告書
3. 内田清之助他編（1949）学生版日本昆虫図鑑、北隆館
4. 環境庁（1979）第2回自然環境保全基礎調査海岸調査報告書
5. " (1984) 第3回自然環境保全基礎調査海岸調査報告書（全国版）
6. " (1988) 動物分布調査報告書、昆虫（セミ及び甲虫）類
7. " (1988) 自然環境保全基礎調査、植生調査報告書（福井県）
8. 町田貞也編（1981）地形学辞典、二宮書店
9. 日本自然保護協会（1966）越前海岸自然公園学術調査報告
10. 日本自然保護協会（1978）若狭の自然観察
11. 佐々治寛之編（1985）福井県昆虫目録、福井県
12. 里見信生編（1979）北陸の自然誌（海編）、巧玄出版
13. 相賀徹夫編（1972）万有百科大事典19植物、小学館
14. 塚野善蔵（1969）福井県地質説明図、福井県

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。

自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしよう。

美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

自然保護憲章より

あとがき

ふるさと福井の自然第3号をお届けします。

本号は、福井県の海岸について、地形・生物分布に焦点をあてて作成しました。

地域の文化は、地域の自然の中から生まれ、自然の影響を大きく受けています。

この小冊子をとおして、ふるさと福井のすばらしい自然を知っていただければ幸いです。なお、今後参考にさせていただきたいと思いますので、ご意見・ご要望などがありましたらお寄せください。

平成元年3月

自然保護課長 田 行 禮 一 郎

ふるさと福井の自然（第3号）

平成元年3月発行

編集・発行 福井県県民生活部自然保護課

〒910 福井市大手3-17-1

TEL (0776) 21-1111

この本は福井県自然保護基金によって作成されました。

（写真提供：伊藤政昭、奥野宏、松村俊幸
東海大学情報技術センター・日本放送出版協会）



ハヤブサ(ハヤブサ科)



ハマベノキク(キク科)

